

# 『リラの花咲くけものみち』と遺愛卒業生

『リラの花咲くけものみち』は、酪農学園大学獣医学部出身の作家：藤岡陽子さんが書いた小説です。

2023年に第7回未来屋小説大賞、2024年に第45回吉川英治文学新人賞を受賞しています。内容は、引きこもりだった女性・岸本聡里が北海道で大学の獣医学生として過ごす6年間に、仲間の学生やさまざまな動物、獣医師たちと出会い、数々の試練が訪れる命の現場で少しずつ成長し、強くなっていく姿が描かれています。



作品中に登場する「北農大学」は、江別にある酪農学園大学がモデルとなっています。NHKで2月1日から土曜日に3回シリーズで放映されていました。ドラマの合間では北海道の野生動物（エゾリス、エゾモモンガ、キタキツネ、エゾシカ、タンチョウ、オジロワシ、エゾフクロウなど）が紹介されていて、心なみしました。

ところで、遺愛からも酪農学園大学獣医学部に進学し、獣医さんになっている卒業生が何人かいますが、私にとってとても強く印象に残っている方は、遺愛 K39 回の岡本麻路さんでした。44年前に、私が遺愛に赴任したときの高校2年生で普通科に所属していました。当時、遺愛の学科には特別進学コースはまだなく、英語科と普通科の構成でした。彼女は部活動はスキー部に所属し、私はスキー部副顧問（大学で競技スキー部に所属していた関係で）として、夏の陸上トレーニングや冬のスキートレーニングを一緒にやりましたので、彼女といろいろと話す機会がありました。

遺愛高校卒業後はお父さんの転勤で札幌に転居し、何年間かペットショップや浦河の牧場でアルバイトをしていたようですが、一念発起し、獣医さんを目指し予備校に通い、25歳の時に酪農学園大学の獣医学部に合格しました。また、遺愛でのキリスト教の原体験とお母さんの友人が札幌ナザレン教会の教会員であったこともあり、札幌では教会に通い始め、クリスチャンになっていました。

麻路さんは、小さいときから犬猫を飼っており（最高16匹）、動物愛にあふれていましたが、大学では、大動物内科学ゼミに所属、実験動物にも愛情をもって接する命を慈しむ学生だったそうです。大学を卒業、同時に青年海外協力隊に参加し、アフリカのザンビアに獣医師として2年間派遣されました。



帰国後、青年海外協力隊派遣前に派遣訓練所で知り合った同じく獣医師の岡本拓さんと1997年11月29日に日本基督教団高輪教会において結婚しました。拓さんの就職に伴い、1998年阿寒町で生活をスタートし、4人のお子さんに恵まれました。4人とも女の子で、長女さん（酪農学園大学獣医学部進学）と次女さん（ICU進学）は遺愛卒業で、在学中は遺愛寮生活をおくっていました。エピソード

ドですが、次女さんが中3の修学旅行の時に、麻路さんは馬に乗って、次女さんが乗るバスのお見送りをしたそうです。

2006年、拓さんの転勤により浜中町へ引っ越し、麻路さんは、子育ての傍ら野犬の保護活動を始めました。2009年、北海道大学動物医療センターの研修獣医師となり、娘4人を連れて札幌の実家に転居しました。3年後浜中町へ戻り、2013年5月「はまなかフィールド ベテリナリー クリニック」を開設し、1次期間診療機関として小動物診療を開始。2014年には浜中町・厚岸町の狂犬病予防接種の実施責任者となり、ワクチン巡回接種を行うとともに、犬の適正な飼育や避妊・去勢手術の啓蒙活動を行っていました。2017年4月、仲間と共に「人と動物が幸せに暮らせる社会づくり」を目指して動物愛護ボランティア『ポラリス☆はまなか』を立ち上げました。2024年8月、「北海道の野犬問題を考える会」の代表として、賛同する動物保護団体や動物病院と連名で野犬対策に関する要望書を保護団体と共に厚岸町に提出するなど、最後まで動物に関わる仕事に尽力していました。

最後までというのは、2018年10月肺腺がんと同時に転移性脳腫瘍が見つかり、ステージIVと診断されていました。分子標的薬の経口投与や放射線治療などを続けていましたが、2024年11月20日に市立釧路総合病院にて天国へ召されました。その日の朝まで、自宅で拓さんと過ごすことができたそうです。（翌日の11月21日は麻路さんの60回目の誕生日でした。）



私が、麻路さんご夫妻と最後に会ったのは今年の9月16日でした。麻路さんは、がん末期の厳しい状況でしたが、拓さんとお二人で浜中町から遺愛に来て下さり、改修を終えた懐かしい本館もしっかりと目に焼き付けてくれました。また、夕食も共にすることができました。

先日、拓さんからお手紙をいただきました。そこには「9月におふたり（私と妻）にお会いすることができて本当に嬉しく思っています。麻路さんと『奇跡の旅行だったね。祝福された旅行だったね。』と話していました。たくさんの人に愛され、祈っていただき、神さまに愛され、それらは大きな慰めです。…」と書かれてありました。神さまに導かれながら、自らの賜物を生かし豊かな人生を生き抜いた、素晴らしい遺愛の卒業生の1人でした。

（麻路さんと拓さん）

2024年2月21日（金）